

# 大会参加報告書

## 2022/12

---

### 大会名

第46回 JFA 全日本 U-12 サッカー選手権

### 日程

12月25日～29日

### 参加者

ユース審判員 32名

### 関西から

小林 顕太氏 (兵庫)

中川 航氏 (大阪)

谷 淳平氏 (兵庫)

---

### 兵庫県サッカー協会・神戸協会所属

2級審判員 瀬田 順矢



# 大会参加報告

まず、初めに大会の事前から関西や兵庫県サッカー協会の推薦があり、参加することができました。そして県4種の大会での割当を頂くなど、ご支援のおかげで貴重な経験をすることができたことを感謝申し上げます。

以下報告となります。

## 参加1日目 12月25日（日）

集合・チェックイン（ホテルタイセイアネックス）

リスペクトワークショップ

全体会

### 大会審判員テーマ

“試合のために必要なことが何かを考え、努力する。”

### 全体会

今回は、研修会としてではなく、大会運営の役員として大会に努めることについてお話を頂きました。各ピッチ8面あり、5日間活動する4人一組のグループを発表しました。

### 活動グループ ピッチ8

黒澤 航介氏(千葉)・渡辺 彪斗氏(静岡)・山本 柚木氏(岡山)・瀬田の4名  
地域インストラクター 袴田 健氏（東北）白石 栄二氏（九州）

## 参加 2 日目 12 月 26 日 (月)

### 試合 第 1 節・2 節

### 全体会



試合だけでなく、大会全体通してとてもフェアプレーで大会運営や審判員にも、リスペクトが感じました。今回、とてもリスペクトされる有難さを初めて実感することができました。

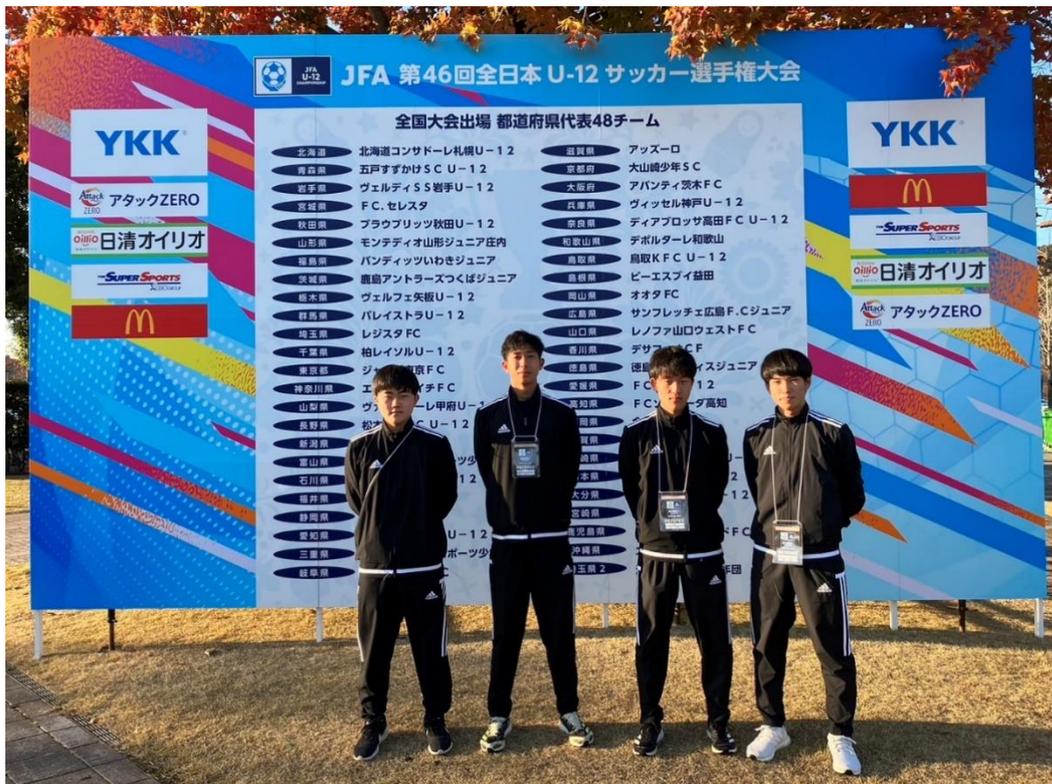
### 会場 ふれあいスポーツランド

9:30 kick off 1 次ラウンド第 1 節 ※①

デサフィオ CF 対 パレイストラ (主審)・(補助・黒澤氏)

11:30 kick off 1 次ラウンド第 2 節 ※②

エスペランサ FC 対 オオタ FC (主審)・(補助・黒澤氏)



---

# 試合の振り返り

## ※①の試合

最初は外に回り込むことを意識していました。

### INST の方からアドバイス

動きの中で首を振って何がみたいのか。自身としては逆サイドの動き出しやオフサイドポジションにいる選手を把握したいから首を振っていたが、体の向きが悪いから何度も見ないといけないそして、動き出しがない。そこで意識してほしいことが。

攻撃側に攻撃参加する意識を持つこと。そうすれば、ゴールに向けたら前線の攻撃選手を視野の内に入れることができる。そしてゴールとの距離など情報が多く入ってくる。

## ※②の試合

攻撃参加できる距離感、セカンドボールを狙うところを考慮しながら動きました。

### INST の方からアドバイス

前との距離が近く、出し手と受け手の線上やスペースに入り込んでしまっているから、首を振らないといけない、中盤やスタートの切りだし方を考えてみる。歩くから走るまでの間にステップを入れて中盤を抜く。

### 全体会

公式記録の確認の注意喚起。

退場者の次節出場停止の情報、共有。退場者の退場場所の確認をしました。

## 参加 3 日目 12 月 27 日 (火)

試合 第 3 節・ラウンド 1 6

全体会 JFA コーチによる技術と審判の協調  
準決勝・決勝担当審判員 6 名発表



### 会場ふれあいスポーツランド

11 : 30 kick off 1 次ラウンド第 3 節

住吉 SSS 対 大分トリニータ (主審)・(補助・渡辺氏)

前日の感覚を忘れないように、

### INST の方からアドバイス

首を振って行動に移すための多くの情報を少ない回数でどれだけ入手し行動できるかが今後のスキルアップにつながる。そして、出し手と受け手に対しての位置関係や、受け手に対してのプレッシャーを感じることができるかが重要だということをお話いただきました。

### 全体会

「技術と審判の協調」というテーマで、JFA コーチのセッションがありました。

JFA のビジョン・2050 約束を確認しました。

そして、審判技術は選手の競技レベルが上がるとのこと。実際、ワールドカップでの活躍は、普段の試合から基準が上がっているため、タフに戦えたこと。やはり、D R E A M 夢があるから強くなる。タフでスピーディーでフェアなサッカーを続けるためにサッカーを戦術的観点で学んでほしいということのお話を頂きました。

### 全体会

32 名の中から準決勝・決勝を担当する 6 名の審判員を発表されました。

## 参加 4 日目 12 月 28 日 (水)

試合 ラウンド 8・準決勝

全体会

会場：鹿児島県立鴨池補助競技場

9：30 kick off ラウンド 8

サガン鳥栖 U-12 対 柏レイソル U-12 (主審・小崎氏) (補助)

補助審判の担当でしたが、ラウンド 1 6 と会場も変わり、前日と選手・監督・観客の緊張感が伝わってくる環境でした。試合の展開も前半 0-2 の状況から後半 2-2 まで追いつきアディショナルタイムで 1 点獲り、2-3 で終了する熱いゲームでした。環境・雰囲気に変化を感じたラウンド 8 でした。

会場：白波スタジアム

15：20kick off 準決勝 第 2 試合

アッズーロ 対 レジスタ FC (主審) (補助：竹谷内氏)



試合としてはフェアで落ち着いた試合展開でした。

ですが、今大会で一番緊張した試合でした。試合中、普段通りではないことに焦りました。全体会で、試合についてどうだったか、話す時間を頂きました。

「試合前、準備など、何が出来たこと・出来なかったこと、どうすれば良かったか。」について、3人2組で共有しました。グループでは、「緊張したこと」に着目しました。準備で、アップなど。人前に立ち、慣れること。コミュニケーションをとることなどが、意見として出てきました。

## 参加 5 日目 12 月 29 日 (木)

**決勝**

**会場：白波スタジアム**

**柏レイソル 対 レジスタ FC**

**観戦**



ファイナルとして、今大会で一番多くの観客が入っていました。

主審は、落ち着いていたように見えたため、「そこは自分が出来なかったこと」と振り返ることができました。

## 最後に

今大会では、普段と違う緊張を学び、準備が大切。そのことについて深く考えることができました。準備は、「試合中想定外のことが起こらないようにする」「日差しによって見え方が変わるピッチのラインなど」「緊張につながる要素を先に確認し共有する」など、コミュニケーションを取ることが大切でした。

5日間で、毎日変化することが実感しました。サッカー観は、人それぞれだからこそ、面白く、刺激を受けることができました。大会は終わり、切り替えて試合に貢献していこうと気持ちと、学習したことを活かせるよう、今後活動していきたいと思います。

大会関係者の皆様。事前の活動などサッカー協会の皆様。本当にありがとうございました。